

先生へ

ラジオネーム：ひよこ

「夢が叶ったら、俺にも報告してくれよ」と声をかけてくれた最後のホームルームから、10年が経ちました。

先生。時間はかかっちゃったけれど、夢叶えたよ。

って先生がいないと誰に報告すればいいのよ・・・そんな思いでいっぱいです。

高校3年生になった、あの年の4月。教室に入ってきたのは、強面の先生。

「今日から君たちの担任だ」と聞いたときには、この1年の厳しさを覚悟しました。案の定、授業中フウトフウトしていると思われ、宿題を忘れたときにもいんぱんに怒られ、いや、私が悪いのは百も承知ですが、少々サボり癖があった私にとって、身が引き締まる思いでした。

そんな中で迎えた、部活動の引退試合。最後の試合で思うような結果が出せず、目の前が真っ暗になったような毎日を過ごしていました。本来であれば、部活動を引退するより、本格的に受験勉強へと移行しないといけないのですが、受験へと向かうことが出来ずにいた私に、先生は「職員室に来い」と一言。きっと怒られるとククククしながら、声をかけた私に先生は

「お前がやりたいものはなんだ」と聞いてくれましたね。私のやりたいもの・夢を理解してくれた先生が翌日、私の夢が叶いそうな進路を一覧として持つてきてくれたのを忘れずにいじがっませせん。

「お前の夢を叶えるなら、うちの学部がいんじゃないか、うちの大学だと就職

にも良いんじゃないか」

先生のおかげで前へと進むことができました。

そして無事、先生がおススメしてくれた大学に合格。

でもね、また私のサボり癖が顔を出してしまって、結局、資格が取れるまでに最短では行けなかった。もう諦めようかなと思っていたときに、

先生が私の夢を聞いてくれたあの日が夢に出てきて、

「もう少しだけやってみろ」と言ってくれました。

あとから聞くと、先生はその時には病気で「く」なっていて、

きっと私のことも見守ってくれて、喝を入れてくれたんだと思うようにしました。

私のサボり癖がなければ、先生にちゃんと報告ができたと思います。

後悔しかありませんが、

「先生、夢叶えたよ、私頑張っているよ」と報告したんです。

そして、そこで花開くまで、まだ見守ってらっしゃいたわさね。